

平成 8 年度貝毒被害防止対策事業（抄録）

湯浅明彦・酒井基介・宮田匠

二枚貝の毒化の原因プランクトンである *Alexandrium* 属の本県海域での記録は昭和 45 年頃からあり、昭和 51 年には小松島湾で赤潮を形成したことが記録されている。また、昭和 61 年と平成 3 年には、播磨灘南東部海域で *A.tamarense* が大増殖し赤潮を形成した。

一方、二枚貝特に一般市民が採捕するアサリの毒化は、昭和 54 年から平成 6 年までの 16 年間で 8 年、計 14 回規制値（4MU/g）を超える麻痺性貝毒（PSP）が検出された。最近では平成 6 年に、内の海で *A.tamarense* による PSP が規制値を超えた。

平成 8 年度における *Alexandrium* 属の出現状況と出現環境及び二枚貝（ムラサキガイ）の毒化について、内の海及び播磨灘東部（北灘沿岸）で調査した。また、毒化の予知のために *Alexandrium* の出現環境について検討したのでその概要を報告する、なお、詳細については「平成 8 年度貝毒被害防止対策事業報告書」を参照されたい。

1 平成 8 年度の状況

平成 8 年 3 月中旬から 4 月上旬に *A.tamarense* が増殖し、最高出現数は内の海で 580cells/l、播磨灘では 6,700cells/l であった。内の海でのムラサキガイ消化盲嚢の PSP 毒力は最高 3.4MU/g にとどまった。このように播磨灘と内の海で *A.tamarense* の増殖に違いが見られたが、播磨灘の増殖域は南東部の比較的狭い範囲であった。香川県の調査によると、二枚貝の PSP 毒力は、局所的に極めて高い値を示している。

A.tamarense は 6 月下旬から 7 月上旬に増殖期を示し、内の海の最高出現数は 3,700cells/l、播磨灘では 2,100cells/l を示した。この間、ムラサキガイ消化盲嚢の PSP 毒力は最高 4.3MU/g を示した。

2 毒化予知手法の開発

春先の *A.tamarense* による 2 枚貝の毒化予知方法を検討してきたが、2 種類の予察と 2 段階のモニタリングで毒化を予知するとともにアサリの規制措置法を検討する方法を提示した。第 1 の予察は 3 月上旬に水温上昇と降水量の平年比を予察指標として環境的に増殖年であるかどうかを予察し、第 2 の予察で珪藻類の出現数と溶存態珪素濃度を指標として *A.tamarense* の増殖期を予察する。また、第一段階のモニタリングは *A.tamarense* の積算細胞密度をモニターすることによって二枚貝の毒化状況を推定するためにムラサキガイの消化盲嚢の毒力検査を行う。予察の結果が貝毒発生年に該当し、ムラサキガイの消化盲嚢の毒力が相当な程度にある場合には、アサリの採捕禁止の措置を検討するためにアサリ可食部の毒力を第二段階のモニタリングとして実施する。